

授業概要

乳児保育Ⅰで学習した理論を踏まえて、具体的に学ぶ。
保育所保育指針で養護の「生命の保持」「情緒の安定」の重要性が強調されている。また、保育内容も乳児・1・2歳児の保育内容も明確になった。このことから、この時期の発達に沿った援助の方法を具体的に学び、保育者としての感性を磨き、より専門的な視点で子どもに関わることができることを目指す。

授業計画

第1回	オリエンテーション 乳児保育での実践と子ども理解
第2回	子どもと保育士等との関係の重要性
第3回	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり
第4回	子どもの主体性の尊重と自己の育ち・子どもの体験と学びの芽生え
第5回	乳児保育の環境と生活や遊びを支える環境構成
第6回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践（生活）
第7回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践（遊び）
第8回	子ども同士の関わりとその援助の実践
第9回	乳児保育における配慮の実践①（養護）
第10回	乳児保育における配慮の実践②（集団生活・個人差）
第11回	全体的な計画と指導計画（長期計画と短期計画）
第12回	個別計画と集団の指導計画・日案の作成
第13回	模擬保育①
第14回	模擬保育②
第15回	振り返りとまとめ
第16回	試験

到達目標

1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。
4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。

履修上の注意

- ・本授業は演習形式であり、グループディスカッションおよび発表形式などアクティブラーニングを導入するが、基本的知識を習得するテーマにおいては講義形態をとることもある。
- ・乳児保育での学びの内容を確認し、積極的に授業に参加すること
- ・プリントファイルを、常に持参すること

予習・復習

- ・予習：授業内容に合わせた、準備をしておく。
- ・復習：授業での実践したことなど、各自復習しておく。

評価方法

- ・課題レポートの提出及び試験によって評価する。授業への参加姿勢（10%）・レポート（30%）、試験（60%）で評価を行い、総合評価60点以上を合格点とする。

テキスト

教科書：・「演習で学ぶ乳児保育」わかば社
参考書：・茶々保育園グループあすみ福祉会（編集）（2019）「見る・考える・創りだす 乳児保育Ⅰ・Ⅱ」萌文書林